

第88号

発行
平成30年1月

センターだより



平成29年度頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会

目次

● 新年を迎えて	1
● 第1回別府重度障害者センター車いすハーフマラソン大会	2
● 第26回文化祭	3
● 蟻の交歓会（答礼訪問）	3
● 第13回大分オープンボッチャ選手権大会	4
● 2017年度 ツインバスケットボール 九州連盟リーグ戦	4
● ~耳あかの話~	5
● 「平成29年度頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」実施報告	6
● 終了者の状況、利用者募集のご案内	7

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

別府重度障害者センター

新年を迎えて



所長 三好 勇史

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から関係機関、地域の皆様から温かいご支援ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、「967」「935」「627」の数字が何を意味しているかおわかりになりますか？
2018年元旦から数えて、東京パラリンピック、東京オリンピック、ラグビーワールドカップ日本開催までの日数になります。

その他、まもなく開幕を迎える韓国平昌での冬季五輪、サッカーワールドカップロシア大会などビッグスポーツイベントが目白押しになっており、楽しみで仕方がありません。

中でも東京パラリンピックには大きな期待をもって注目しています。当センターでは基礎体力の獲得・体の使い方の修得・健康維持の方法を学ぶことを目的にスポーツ訓練を行っています。また、利用者のニーズに応じて、終了後もスポーツが続けられるよう各種競技スポーツの導入も行っていて、年間を通して車いすマラソン、ボッチャ、ツインバスケットボール大会に参加しています。

さらに、スポーツ訓練を担当している運動療法士が障害者スポーツに関する研修会の講師をつとめる等、障害者スポーツの普及や定着に向けて積極的に取り組んでいます。

しかし、訓練終了後にスポーツを継続することはなかなか難しいのが現状です。サポートする人や競技用スポーツ用具、練習場所の確保などが大きな課題となるからです。

ですから、東京パラリンピックがきっかけとなって多くの方が、地域に戻られてからも当たり前のようにスポーツに取り組むことができるよう、ソフト面ハード面ともに環境が整い充実することを期待しています。

次にラグビーワールドカップ日本開催についてです。前号の就任挨拶でランニングが趣味であることを書きましたが、スポーツ観戦で一番好きなのはラグビーです。毎年10回程度試合会場へ足を運び観戦しています。

ラグビーの魅力はいろいろあります。激しいタックルや華麗なステップも魅力の一つです。しかし、他のチームスポーツにない特徴として太っている選手もいれば、背が高い選手も小さな選手もいる。足が速いトライゲッターもいれば、足は遅くても味方のためにコンタクトプレーを厭わない選手もいる。一人一人が自分の体形や特徴を活かした役割をチームの勝利のために一生懸命果たしている姿に強く共感を覚えるから大好きなんだと思います。まさに「One for all, All for one」の精神です。

2019年大分県では準々決勝を含む5試合が開催されますので、是非多くの方に興味をもつてもらい、東京パラリンピック同様に盛り上げてほしいと願っています。

では、最後になりますが、本年も皆様にとってより良き年になりますことを祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。

第1回別府重度障害者センター車いすハーフマラソン大会

木畠 聰

7時過ぎ、選手を乗せたバスは別府市街地を抜け海岸沿いの別大国道に入りました。センターの周囲はそれほど風は強くなかったのですが、海沿いは台風22号の影響による大きな波のうねりが岸壁に打ちつけ、左斜めから道路にたたきつける雨が飛まつとなって右方向に吹き飛ばされていきます。「参加選手に怪我がなければ」と、大会の開催を疑うこともしなかった私に、「先生、中止みたいです」…。「えっ なにが」…。

当センターから3名の選手が出場する予定だった、第37回大分国際車いすマラソン大会、大会史上初の「中止」が当日の朝7時過ぎにネットで発表されたのでした。

選手の当時の気持ち、私がここで文章で伝えるなどとてもできません。

それから2週間後、平成29年11月15日、大分川河川敷コースにて「第1回別府重度障害者センター車いすハーフマラソン大会」が、開催されました。「このままでは終われない」と、レーサーやヘルメットにも大会当日使用予定だったゼッケンを取り付けたまま、3名の選手はスタート地点にラインナップしました。センターOBでT51クラスの日本最高記録保持者である井上聰さんを愛媛県からお迎えしての4名によるレースです。気温16.9度 風は北北西5mの強風の中、21.0975km先のゴールに向けて勢いよく飛び出します。片道2.5kmの距離を4往復します。向かい風の区間はレーサーが止まりかけてしまうほどの強風にひたすら耐えながら距離をきざんでいきます。低血糖になりかける選手もいましたが、マラソンランナーでもある所長がなぜか持ち合っていたエナジージェル（マラソン用の補給食）で元気が出たり、強風で失速しかける選手を見かねた井上さんが、先導してくれる場面もあるなど、大変厳しい状況下でしたが、選手の頑張りと周りの方の総力戦で3名とも無事ゴールすることができました。

T52クラスの石川水緒さんが2時間07分13秒、T51クラスの福丸智浩さんが2時間07分58秒、同じくT51クラスの平田潤一郎さんが2時間45分15秒とあの強風の厳しいコンディションの中で価値ある完走でした。レース後には、三好所長より所長手作りの記録証が3名の選手に渡されました。

今回の第37回大分国際車いすマラソン大会の中止、しっかりと準備してきた選手にとっては本当に残念でした。この第1回別府重度障害者センター車いすハーフマラソン大会が次のステップに向けてのひとつの区切りになればと思います。



第26回文化祭

10月21日(土)、第26回文化祭を開催しました。
今年のテーマは「紡ぐ」。

台風の接近が報じられる中、前日から雨天に備えて準備しました。

当日は朝から天気予報通りの雨模様で、更に雨脚が強まることが予測されたため、模擬店の一部を屋内に移動し、福祉車両展示コーナーも建物に近い場所に移動するなど関係スタッフの協力を得て慌しく当日の準備を行いました。

悪天候のため来場者も激減する事が予想されましたが、大雨にも関わらず多くの終了者や家族、地域住民の方々に来所していただきました。

特別企画として、黒木記念病院から「黒木芸術団」をお招きし、よさこい、ギター演奏、三味線の演奏、ベリーダンスなど美しい音色と華やかなステージを楽しむことができました。

毎年恒例の訓練紹介・体験、スポーツ体験、福祉機器展示、終了者の手織り・トールペイント作品展示販売、模擬店、町内の方々とのカラオケ大会も行い、特にカラオケ大会は立ち見客も出るほど盛況でした。

最後に、文化祭の運営にご協力いただいた関係者の皆様、並びにご来場いただいた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



虫の交歓会(答礼訪問)

恒例行事となっている虫の交歓会(答礼訪問)のため平成29年11月9日(木)に竹田市立南部小学校を利用者4名と職員5名で訪問しました。虫の減少等に対する環境保護の意識も高まる中、今年もこうして虫の交歓会を継続して開催できたことは、ひとえに関係者の皆様のご尽力の賜物と深く感謝致します。

当日も南部小学校児童の皆様と当センター利用者の皆さんとの交流を楽しく行いました。

児童の演奏・合唱に感動を覚え、ゲームや昼食会では明るく活発な児童との会話に時が経つのを忘れてしまうほどでした。南部小学校と当センターの交流を通じて、児童の皆様はよりいっそう障害や環境保護の理解を深められ、利用者の方々は児童の皆様から元気を分けていただき今後のリハビリの励みになったと思われます。

この交流会が未来永劫受け継がれていくことを切に願います。



第13回大分オープンボッチャ選手権大会



平成29年9月24日(日)に別府市の太陽の家サンスポーツセンターで開催された第13回大分オープンボッチャ選手権大会に、当センターからボッチャクラブの利用者9名が3チームに分かれて参加しました。表彰台を独占する意気込みでチーム編成し、日々の練習に励み大会に挑みました。

大会には山口県や宮崎県など他県からの参加を含めて12チームが参加していました。当センターチームのメンバーは、大会独特の雰囲気に緊張を感じながらも当初からの目標である表彰台独占に向け、試合前のウォーミングアップを念入りに行いました。表彰台までの道のりは、まず3つの予選リーグに分かれ、勝敗と得失点差で上位4チームが決勝トーナメントで優勝を争います。

結果は、3チームとも予選敗退。3チームともに試合の要所要所で練習の成果を発揮できたものの表彰台には届きませんでした。一方で、大分県ボッチャ協会と試合をした「別府重センG」は、負けはしたものの接戦であり、白熱した試合を評され、敢闘賞をいただくことができました。

日々のクラブ活動では経験できない、良い緊張感、勝敗のある試合と大変楽しく参加することができました。今後もこのような大会には是非参加したいと思います。

2017年度 ツインバスケットボール九州連盟リーグ戦

平成29年11月25日(土)、太陽の家サンスポーツセンターで開催された「2017年度 ツインバスケットボール 九州連盟リーグ戦」に当センターのツインバスケットボールクラブ7名の利用者が参加し、太陽の家アポロンズ、太陽の家ブレイカーズと対戦しました。太陽の家アポロンズ戦では0対44、太陽の家ブレイカーズ戦では2対104と大敗しましたが、チームプレーが随所にみられ、練習の成果をみせることができました。また、実力の勝る両チームの胸をかりるなど良い実践練習ができ、次につながるものになったと思います。ツインバスケットボールを生涯スポーツとして継続し活躍している終了者の方々も多くいるので、これからもこのような大会には参加していきたいと思いま



～耳あかの話～

診療室 徳永 ひろ子

皆さんには耳あかがどうして出来るかご存じですか？今回は耳あかの話をしようと思います。耳あかは耳の中を適度に湿らせ、外からのホコリなどが入らないようにしたり、雑菌の繁殖を防いだりするという役割があります。

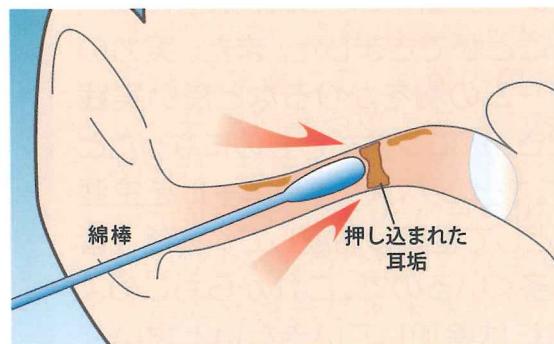
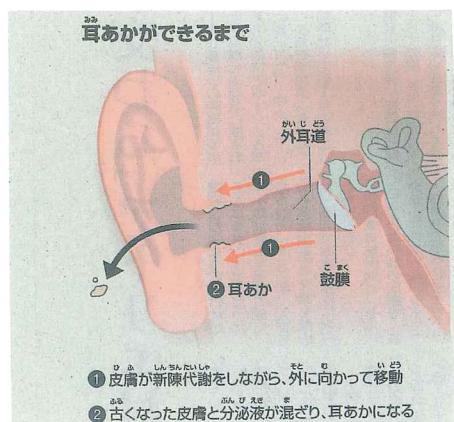
耳の入り口から入った穴の中の道を外耳道といつて皮膚に覆われています。その奥の突き当たりに鼓膜があります。皮膚は常に新陳代謝を繰り返して新しい皮膚に生まれ変わり、ケガや感染から耳を守ってくれます。

耳の穴の中の皮膚はベルトコンベヤーのように奥から外側に向かって少しづつ動いています。そのため皮膚は奥にたまらず耳の穴の入り口に運ばれるようになっています。入り口あたりに耳垢腺という分泌物を出す汗腺があって奥から運ばれてきた皮膚と外から入ったホコリと分泌物が混ざって固められたものが耳あかになります。

そこで耳掃除ですが、入り口の方に運ばれてくるので本来必要ありません。「肘より小さいものを耳に入れるな」と英語のことわざにあるそうです。するなら、きれいな綿棒を使って入り口あたりを2~3周させる程度でよいのです。毎日する必要はなく、1カ月に1、2回くらいで十分です。綿棒などを奥に入れると逆に耳あかが奥に押し込まれることもあります。耳の穴の入り口近くの皮膚の下は軟骨でクッションになってあまり痛みは感じませんが、奥の方は皮膚の下が硬い骨なので痛みがあります。硬い耳かきなどでガリガリこすることで皮膚が傷ついたり、誤って鼓膜を破ったりすることになります。皮膚が傷ついて炎症を起こすと余計にかゆくなります。さらに炎症を起こすことで皮膚の作用（ベルトコンベヤーの作用）が弱まることにもなり、細菌感染もしやすくなります。

耳あかがカサカサしている人とネバネバしている人がいますが、これは耳垢腺から出る分泌物の量によって変わります。液の量が少ないとカサカサに乾いた耳あかになります。逆に分泌物が多いとネバネバしたものになります。これは主に遺伝で決まります。日本人はカサカサの人が多く、欧米の人はネバネバの耳あかが多いと言われています。

(参考：2017年11月18日の朝日新聞「耳あかはどうしてできるの？」より)



▲福岡市かきうち耳鼻咽喉科HPより

◀11月18日土曜日 朝日新聞朝刊より

「平成29年度頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」実施報告

去る12月9日（土）・10日（日）に別府市「ビーコンプラザ」及び当センターを会場に「平成29年度頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」を開催いたしました。当研修会は先進的な取り組みをしている国立施設や病院・施設等において開発・実践されている頸髄損傷者のリハビリテーションに関して研修を行い、頸髄損傷者に対するリハビリテーションの普及・発展に寄与することを目的に国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局の所沢センター及び当センターにおいて開催されているものです。

1日目は「C4、C5頸髄損傷者のリハビリテーションの現状と課題」について国立障害者リハビリテーションセンター飛松好子総長、また「脊髄再生医療の現状」について国立障害者リハビリテーションセンター病院障害者健康増進・運動医科学支援センター（併：再生医療リハビリテーション室長）の緒方徹センター長による基調講演が行われました。

続いて「国立施設におけるC4、C5頸髄損傷者のリハビリテーションの実際」と題して国立施設の職員と吉備高原医療リハビリテーションセンターや別府リハビリテーションセンターの専門職を交えたパネリストによるパネルディスカッションを行いました。

2日目は当センターにおいて「理学療法」「作業療法」「障害者スポーツ」「看護・介護」「職能訓練」のセミナーごとに訓練等支援状況の紹介を行いました。一部のセミナーにおいて希望受付時に早々と定員に達してしまい参加希望の皆様にはご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

当日は岩手県から鹿児島県まで1日目117名、2日目125名の参加があり、注目の高さがうかがえる研修会となりました。

また職種としてはPT、OT、看護師、医師のほか介護福祉士、相談支援専門職、MSW等々障害者支援に携わる多くの方々に参加いただきました。

会場内やアンケートを通して伺った参加者の皆様の声を今後の研修会に活かしていくたいと思います。



基調講演
(1日目)



パネルディスカッション
(1日目)



セミナー
(2日目)

終了者の状況

(平成29年7月1日～平成29年12月31日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設 ・能開校	他施設	病院	進学	その他	計
人 数	8	1	0	0	0	2	0	0	0	11
比率(%)	72.7	9.1	0	0	0	18.2	0	0	0	100.0

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設です。主に頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方で、市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方を対象に、社会復帰に向けた支援を行っています。

ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練(機能訓練)

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者総合支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。(頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。)

○施設入所支援

自立訓練(機能訓練)を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けながら宿舎の利用が可能です。

詳細は、次のURLから当センターのホームページをご参照下さい。

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南莊園町2組

電話 0977-21-0182(利用相談) FAX 0977-21-2794

E-mail soudan-beppu@rehab.go.jp

頸髄損傷者の自立訓練(機能訓練)については下記の
国立障害者リハビリテーションセンターの利用も可能です。

国立障害者リハビリテーションセンター

所在地 〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地

電話 04-2995-3100(代) FAX 04-2992-4525(直通)

発行 別府重度障害者センター